

さいたま市におけるインフルエンザの流行状況（速報）

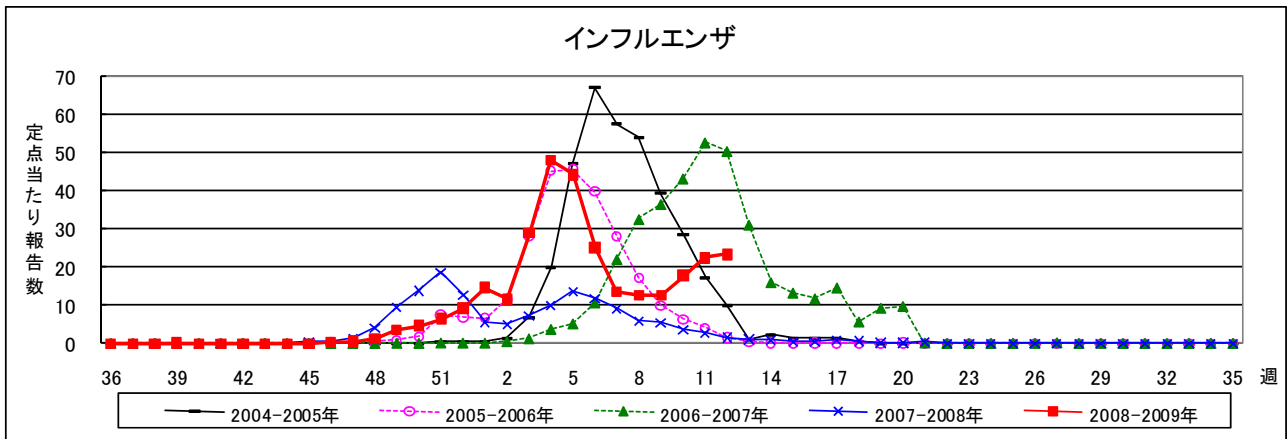
2008-2009 年シーズン、第 12 週(3 月 16 日～3 月 22 日)

I. インフルエンザ患者発生報告状況

1 感染症発生動向調査による定点医療機関からの患者報告状況

第 12 週(3 月 16 日:月曜日～3 月 22 日:日曜日)のインフルエンザ定点医療機関(市内 38 ヶ所)からの患者報告数は 871 人でした。「定点当たり報告数」は、前週の 22.59 から**微増し、23.54 人となりました**。依然として、流行警報継続基準値の定点当たり 10 を超えています。今後の動向に、引き続き注意が必要です。第 12 週までの累積報告患者数は、11,144 人となりました。

予防及び感染拡大防止のため、咳エチケット・手洗い・ウガイの励行、並びに体調の悪いときは、早めに休み医療機関を受診するよう、御指導お願いします。なお、咳エチケットについては、さいたま市感染症情報センターホームページに「咳エチケットを守りましょう!」を掲載していますので、随時、御活用ください。



2 インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等

第 12 週は、学級閉鎖 32 学級、学年閉鎖 1 学年(2 学級)の報告がありました。

II. 市内病原体定点等からのインフルエンザ検体ウイルス検出状況について

今シーズン、第 12 週までに提供された検体からのウイルス検出状況は、表のとおりです。

国立感染症研究所感染症週報によると、全国的なウイルス分離状況から、現在の流行は B 型中心であると推察されています。

さいたま市における、オセルタミビル(タミフル) 耐性マーカー変異 A ソ連型ウイルスについて

国立感染症研究所 IASR 速報によれば、今シーズンに全国で分離された、A ソ連型ウイルスの 99.6% が抗インフルエンザウイルス薬オセルタミビル(タミフル)耐性とされています。

さいたま市健康科学研究センターにおいて、今シーズン(第 49 ～第 5 週)に、提供(採取)された A ソ連型ウイルス 18 株を解析したところ、18 株全てにオセルタミビル(タミフル)耐性を示唆するアミノ酸変異を認めました。

インフルエンザウイルス検出数('08-'09シーズン)

検体採取週	分離 ¹⁾		
	A型		B型
	H1亜型	H3亜型	
2008年第49週	2	1	0
第50週	4	4	0
第51週	1	0	0
2009年第2週	1	2	1
第3週	1	0	1
第4週	8	2	3
第5週	1	0	0
第8週	1	0	0
合計	19	9	5

1) ウイルスそのものが検出されたもの

病原体定点の先生方には、今後も引き続き、検体採取のご協力をお願いします。

※この情報は 3 月 25 日現在の速報です、後日データの修正をすることがあります。